

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成18年1月25日

(2) 調査対象期間 平成17年10月～12月期実績および平成18年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	16社	53.3%
建 設 業	30社	22社	73.3%
卸 売 業	30社	22社	73.3%
小 売 業	35社	15社	42.9%
サービス業	25社	13社	52.0%
合 計	150社	88社	58.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成17年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」10.4、「悪化企業」51.7、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△41.3となっています。このD・I値を前期調査<17年度第Ⅱ四半期>と比較してみると前回△44.7→今回△41.3と3.4ポイント好転、「好転企業」が1.3ポイント減少、「悪化企業」が4.7ポイント減少しており、前期調査との比較では好転企業が若干減少しているものの悪化企業の減少が上回ったため、全体としては改善傾向を示しています。また前年同期比(△39.3)との比較では、2.0ポイントと悪化しており、前回同様依然として厳しい経済状況にあります。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△31.1、建設業D・I値△52.3、卸売業D・I値△22.7、小売業D・I値△59.9、サービス業D・I値△46.1となっており、前年同期調査と比較するとサービス業では大幅な改善傾向が見られ、製造業・卸売業はほぼ横ばい、建設業・小売業については大幅な悪化傾向を示しております。全体的には若干回復傾向にあるものの、業種別での回復傾向と悪化傾向の数値の差が大きいため、まだまだ予断を許さない状況にあります。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」5.8%「悪化企業」44.8%でD・I値△39.0と、前年同期見通し(△41.1)に比べ2.1ポイント改善しており、前期調査と比較しても2.5ポイント改善しており、ここにきてやっと回復の兆しが見えつつある来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」18.8%、「減少企業」56.2%、D・I値△37.4と前年同期に比べ1.0ポイントの悪化、前期調査との比較でも13.9ポイント悪化しており、前期に引き続き大幅な悪化傾向を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」13.3%、「悪化企業」53.4%、D・I値△40.1と前年同期に比べ0.8ポイントの改善、前期調査との比較でも1.2ポイント改善、生産高は悪化しているものの、採算性は小幅ではあるものの改善の兆しが見られます。

来期見通し

業況D・I値△37.5、生産高D・I値△43.8、資金繰りD・I値△12.5と、前年同期に比べ生産高D・I値は悪化を示しているものの、業況D・I値はほぼ横ばい、資金繰りD・I値は大幅な改善傾向を示しています。前期調査との比較でも業況・生産高D・I値は悪化しているものの資金繰りD・I値は16.9ポイントと大幅な改善を示しており、資金面については明るい見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高

前年比で「増加企業」9.5%、「減少企業」61.9%、D・I値△52.4と前年同期に比べ28.6ポイントの大幅な悪化、前期調査との比較でも増加・減少企業ともに悪化、D・I値も12.5ポイントの悪化傾向を示し、引き続き暗い状況となっています。

採算

前年比で「好転企業」0.0%、「悪化企業」70.0% D・I値△70.0と前年同期に比べ27.1ポイント悪化、前期調査との比較でも29.7ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、大変厳しい状況になっています。

来期見通し

業況D・I値△47.5、完成工事高D・I値△38.1、資金繰りD・I値△28.7と前年同期に比べすべてのD・I値は改善傾向を示しています。また、前期調査との比較でもすべてのD・I値は改善傾向を示しておりますが数値は高く、依然として暗い来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」22.7%「減少企業」31.8%、D・I値△9.1と前年同期に比べ12.7ポイントと大幅な改善傾向を示しています。また、前期調査との比較でも8.3ポイントの改善傾向を示しており、引き続き順調な回復傾向を示しています。

採算

前年比で「好転企業」9.1%、「悪化企業」22.7%、D・I値△13.6と前年同期に比べ8.2ポイントの改善傾向を示しています。また、前期調査との比較でも3.8ポイントの改善傾向を示しており、売上高回復に伴って前期に引き続き明るさが見える状況となっています。

来期見通し

業況D・I値△22.7、売上高D・I値△18.2、資金繰りD・I値△4.6と前年同期に比べすべてのD・I値が大幅な改善傾向を示しており、特に売上高・資金繰りD・I値は16.0ポイント・17.2ポイントと高い数値となっています。前期調査との比較でも同様に、全体的に引き続き明るい来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」6.7%「減少企業」60.0%、D・I値△53.3と前年同期と比べて12.4ポイントと大幅な悪化傾向を示しています。また、前期調査との比較でも15.8ポイントと大幅な悪化傾向を示しており、数値も高く厳しい状況となっています。

採算

前年比で「好転企業」14.3%「悪化企業」71.3%、

D・I値△57.0と前年同期と比べ16.0ポイントの大幅な悪化傾向を示しています。しかし、前期調査との比較では逆に5.4ポイントと改善傾向を示しており、少し明るい兆しが見えつつあるものの数値は高く、依然として厳しい状況にあることに変わりはありません。

来期見通し

業況D・I値△59.9、売上高D・I値△53.3、資金繰りD・I値△6.6と、前年同期と比べ業況・売上高D・I値は大幅な悪化傾向を示していますが、資金繰りD・I値は12.1ポイントと大幅な改善傾向を示しています。前期調査との比較でも同様で、資金繰りは明るさが見えるものの、全体的には予断を許さない見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」23.1%、「減少企業」61.5%、D・I値△38.4と前年同期と比べ19.5ポイントと大幅な改善傾向を示しています。また、前期調査との比較では5.1ポイント悪化傾向を示しており、ここにきて低迷の兆しが見えつつあります。

採算

前年比で「好転企業」15.4%、「悪化企業」61.5%、D・I値△46.1と前年同期と比べ22.3ポイントと大幅な改善、前期調査との比較でも小幅ですが0.5ポイント改善しており、採算面では引き続き明るい兆しが見える状況にあります。

来期見通し

業況D・I値△30.9、売上高D・I値△23.0、資金繰りD・I値△30.8と前年同期と比べD・I値はすべて改善、前期調査との比較でもすべて改善傾向を示しており、前期調査では悪化傾向にあったものの、ここにきて再び明るさが見える来期見通しとなっています。

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	同業者間の競合	得意先減少	諸経費増	人件費増	人材不足
建 設 業	得意先減少	同業者間の競合	諸経費増	人材不足	受取手形不渡
卸 売 業	得意先減少	同業者間の競合	諸経費増	人材不足	人件費増
小 売 業	得意先減少	同業者間の競合	諸経費増	人材不足	人件費増
サービス業	同業者間の競合	諸経費増	得意先減少	人件費増	人材不足
合 計	同業者間の競合	得意先減少	諸経費増	人件費増	人材不足

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。